

## 式辞

今年の春は、ことのほか暖かく、武庫川縁の桜も満開を過ぎつつあるようです。春爛漫の佳き日に、阪神昆陽高等学校育友会会長、佐藤真佐美様、阪神昆陽特別支援学校PTA会長、平田香様をはじめ、ご来賓、保護者の皆様のご臨席のもと、平成二十六年入学式を挙行できますことを、衷心より厚くお礼申し上げます。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。これから皆さんと一緒に、阪神昆陽の歴史を創っていけることを、とても楽しみにしております。また、保護者の皆様には、本日は誠にめでとうございます。心からお喜びを申し上げます。

さて、この阪神昆陽高等学校は、生徒の興味・関心や、多様な学習ニーズに応じて、主体的に学ぶことができる、多部制単位制高校です。また、阪神昆陽特別支援学校は、生徒の社会的・職業的自立を支援するための、職業教育に重点を置く、高等部の特別支援学校です。

両校は、平成二十四年四月九日に開校して以来、一体となって交流及び共同学習に取り組んでいます。具体的には、音楽や美術、情報、体育などの授業を、両校生徒が一緒に学んだり、体育祭や文化祭などの学校行事を、

合同で実施しています。これは、きわめて先進的な取り組みであると、兵庫県のみならず、全国的にも注目を集めています。このように、阪神昆陽両校は、大きな特色を有した、すばらしい学校であり、皆さんは誇りと自信を持って、入学してほしいと思います。

さて、入学に際して、三つのことを皆さんに要望したいと思います。

一つ目は、校訓「日常実践」についてです。「日常実践」という校訓には、「挨拶する、美化や整頓に努める、約束や時間を守るなど、生き方の基本ともいえるべきマナーやルールを、日常生活の中で常に実践していくことで、人間的な成長を目指す」という意味を込めています。

現代社会は、様々な課題に満ちています。この厳しい社会を生き抜いていくためには、まず自分自身が努力して、人間としての力を高めなければなりません。ではどうすればよいか。それはひたすら実践していくことです。高校時代・高等部時代という貴重な時期に、自ら目標を定め、「日常実践」に取り組むことで、人間的な成長を実現してほしいと思います。

二つ目は、「絆」ということです。平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災は、ほぼ二万人に及ぶ死者、行方不明者が出るといふ大災害でした。この大震災により、私たちは、「絆」、つまり人と人とのつながりが、如何に大切かを、気づかされたのです。

先ほどお話ししたように、阪神昆陽の大きな特色は、両校の生徒が、授業や学校行事、

部活動などを一緒に取り組むことで、共に助け合って生きていくことを、実践的に学ぶというものです。これは、「絆」ということを、学校生活の中で育んでいくものといえましょう。どうか皆さん、生徒同士が思いやりを持って接していく中で、お互いの「絆」を深めていってください。

三つ目は、「阪神昆陽高等学校と阪神昆陽特別支援学校はひとつ」ということです。両校一体を象徴するものとして、校章、校歌、校訓や標準服などを同一にしています。校長も別々でなく、一人が兼ねることになり、特別支援学校には副校長が置かれています。

両校の職員は、皆さんを分け隔てなく、接してくれます。どうか皆さんも、「阪神昆陽はひとつ」という意識を持ち、学校生活を送ってほしいと思います。

最後になりましたが、ご来賓・保護者の皆様から本校にいただきありがとうございますご厚情とご支援に對しまして、厚くお礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

平成二十六年四月八日

兵庫県立阪神昆陽高等学校校長兼

兵庫県立阪神昆陽特別支援学校校長

尾崎文雄